

新燃岳降灰

高崎川に「鋼製牛杵」

普賢岳使用土石流対策で

霧島連山・新燃岳(1421m)の降灰による土石流対策などに使われてきた土石流対策用設備「鋼製牛杵」を普賢岳高崎川の高崎川上流に設置した。

普賢岳の麓の水無川で使われていた鋼製牛杵は幅が約4.6mの楕円形。川を流れてくる岩や木をきき止めた後、土石流の勢いを弱めたりする効果がある。

分解し輸送された鋼製牛杵の積み降ろしや敷設作業は7日に実施。8日は作業員約15人がクレーン車などを使って組み立て、河川の砂防えん堤から約200m上流に設置した。

高崎川では8月下旬、灰水が砂防えん堤の水の抜け穴を

あきで、大量の土砂が下流に流れる恐れがあったため、国土事務所に霧島県庁市の国土省霧島復興事務所へ貸し出し

を要請していた。高崎川国境事務所大淀川砂防出張所の江口秀典出張所長は「この砂防えん堤のすぐ下流には民家があり、土砂などが流れ込むと危険。今後の台風や大雨に備え、対策を期待したい」と話している。



流木などをせき止めるために設置された鋼製牛杵—8日 午前、高崎町高崎川・高崎川